

第2期 第5回向日市エコ地域推進委員会議 会議録

- ・ 日 時 : 平成21年3月11日(水)
午前10時～11時50分
- ・ 場 所 : 図書館 会議室
- ・ 出席者 : 委員 10名
木村市民生活部次長 山本市民生活部次長
谷川課長補佐 笹田係長 高津総括主任
- ・ 傍聴者 : なし
- ・ 議 題 : 1. 平成21年度の取組について
 - ・ 環境政策課の取組
 - ・ エコ地域推進委員会議の取組2. その他

(司 会)

年度末のお忙しい時期に、早朝よりお集まりいただきましてありがとうございます。

本日は、平成20年度の最後の会議となります。それでは、早速ですが、第5回向日市エコ地域推進委員会議を開催させていただきます。

座長、よろしく願いいたします。

(座 長)

みなさん、おはようございます。

今回は、21年度事業をご検討いただく内容としております。

今年度は、マイバッグ運動にご協力いただきましてありがとうございます。

また、向日市まつりのアンケート調査および、各事業所を回った結果いろいろなことがわかってまいりました。今以上になお一層これを強力に推し進めていかなければ、マイバッグ・ノーレジ袋運動が進捗しないことがわかりまして、来年度もこの問題に取り組んでいきます。前々回ぐらいから街頭啓発に参加される方も多くなりまして、消費者の会の方にもご参加いただいています。

前回、4時から啓発活動を行い、若い人たちにも啓発ができました。しかし、4時ばかりではそれぞれの都合もありますので、今後啓発時間については検討していきたいと思っています。

平成21年度はマイバッグ運動だけではなく、地球温暖化問題、またごみ

の削減問題があります。

それでは、環境対策課の21年度の取り組み事業を事務局から説明していただきます。よろしくお願いいたします。

(事務局)

環境政策課の21年度取組事業について

① ゴーヤの苗を使ったグリーンカーテン講習会の開催

開催は5月中旬で、講師を招き作り方の指導をしていただく。

参加者は広報紙により募集。参加費は無料とし、参加者にはゴーヤの苗をさしあげます。

講習会后、エコ推進委員による生ごみの堆肥化の啓発。

② 廃食油回収の立ち上げ支援

地域や団体で廃食油を回収。市から油回収用のポリ容器とのぼり旗をお渡しします。

③ 環境市民講座（年1回）

④ 市内一斉クリーン作戦

⑤ ノーレジ袋・マイバッグ運動

(司 会)

今の説明に補足をさせていただきます。

3月23日の本議会で21年度予算が決定されますので、今の説明につきましては、環境取組の中で予算化したもので、市民協働の取り組みとして、エコ推進委員会議の皆様方のご協力をいただきながら、各種事業を取り組んでいきたいと考えておりますので、本日はその内容についてご検討いただきますようお願いいたします。

なお、グリーンカーテン講習会を5月に開催することについては、苗を植える時期を考えまして開催日を設定いたしました。

今後とも積極的な支援活動で取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(座 長)

ありがとうございました。

23日の本議会で正式に予算が決定されるということですが、このような形で取り組んでいきたいという考え方でございます。

その中で、グリーンカーテンについては、長岡京市や向日市内の小学校、また各個人などで普及しているが、まだもう一歩というところである。

ゴーヤの種であれば今から蒔かないといけませんが、苗であれば5月中旬であればいいのではないかと思います。

昨年乙訓保健所では、5月26日頃に講習会がありましたが、20日を過ぎると遅すぎると思っていますので、中旬であればいいのではないのでしょうか。

これを今後どう取り組んでいくか検討します。

市の予算を見ましても、ごみに対する予算は一般財源からクリーンプラザへ約8億円支出されている。ほとんどが分別、焼却の経費で、これは向日市だけではなく各自治体が悩んでいる。ごみの削減化マイバッグ運動と同時に削減化は非常に大事だと思います。

クリーンプラザの方に聞きますと、生ごみを焼却する場合、炉の温度を相対上げないと焼却できない。そうすると炉は早く壊れる。

1週間ぐらい前に、京都市の生ごみ対策、山国自治会および、御室小学校、きのうは桂坂の自治会の新林公園でコンポストを使って、落ち葉の堆肥化をされているのがテレビで紹介されていた。

京都市のまち美化環境推進課では、生ごみおよび、堆肥化の問題を扱っていて、そこでは平成20年10月から生ごみについて、一般市民に広げる前に、実験的に研究するため、11地区の自治会から公募した。

その中で、右京区の山国自治会、大原野が応募され、御室小学校では学校給食の堆肥化をされている。それを1年間実験している。

生ごみの堆肥化だけではなく、生ごみを使って電気を発生する自治会、また、バイオガソリンを作る自治会を募集し実験している。山国自治会は今年の2月から取り組んでいる。

自治会全部でコンポストを買ってEMぼかしを入れて、最終生成は市が250万円の機械を支援する。1年間それを堆肥化し、その堆肥化された分についての処置は自治会が各家の花用の土に使ったり、また農家の畑に提供する。

これを1年間実験的にやり、アンケート集計したうえで、どのように分別するのか検討する。

長岡京市は、市民農園をエコ農園として利用して生ごみの堆肥化問題に取り組んでいる。

向日市としてもこの堆肥化問題は、ごみ削減の重要な問題となっているのでどのように取り組んでいくか。

また、グリーンカーテン講習会や、環境市民講座については、市独自で開催するのははじめてですので、このような取り組みについては評価されるものであると思います。

この会議の中で生ごみについて研究されている方もございますので、ご発言をお願いします。

(委員 1)

生ごみについては、ごみとして出さず、土の中に入れて堆肥化をしています。

本を見ますと、いろいろな堆肥化の方法が載っています。

家庭で土のないところもありますので、その方でも 1 m²か 2 m²のスペースがあればできる方法があります。

それは土のう袋に、生ごみを分解する腐葉土を入れて、生ごみ、米ぬか、落ち葉や土を入れて、これをサンドイッチ状態にして、袋がいっぱいになれば口をしぼり、段ボールに入れて発酵させる。中は人間の体温より高く、40度程度になる。

そして堆肥ができれば、コンポストに入れて、花を植えたり、野菜づくりに使う。これをすすめていきたいと思っています。

一番手間がかからないのは、生ごみを土の中に埋める方法なのですが。

(座 長)

堆肥化の方法はいろいろな方法がありますので、講習会を開く必要があります。

堆肥化の方法がわからず失敗されている例が多い。いくらコンポストの支援をしても、土に返さなければ堆肥化にならない。

各家庭でされている方は、におうのでできないということをよく聞く。

また、堆肥化した土をプランターに使っても余るし、その後どうしていいかわからないので、今は使っていない方も多い。

(委員 2)

今の説明は、家庭でするのは一次発酵であり、1ヶ月程度かかる。

また夏、冬で違いはあるけれど、ある程度発酵が終わったものは土に戻さなければならない。土の中に入れて完熟させなければ堆肥化にはならない。

コンポストで失敗するのは、水気が多くて発酵せず腐って虫がわく。

今研究しているのは、一次発酵をして温度が上がっている。においはしません。

一次発酵が終わって堆肥のタネができ、それをコンポストや土に埋めて、何ヶ月後には堆肥になる。

家庭でされるのは、第一段階までして下さい。袋がいっぱいになれば集めて共同の場所にもって行って、そこで管理をしながら二次発酵をして堆肥を作る。できた堆肥は持ち帰る。

(座 長)

京都市の山国自治会も、土に返す受け皿となる農家との話し合いがなかつ

たので取組が遅れた。

東京の生協では、堆肥を電気やガソリンに使い、これを京都市は一度やろうということで、各地区で研究している。

今すぐに、それに取り組むのは無理なので、啓発運動、市民講座で間違いない堆肥化を指導していく必要があるのではないか。

向日市も畑が多いので、土に返すとなれば、行政も農家組合との連携が必要ではないかと思う。

(委員 3)

生ごみの堆肥化について、各家庭での一次発酵をどう進めて啓発していくのか。

一次発酵した生ごみを二次処理で完熟さすには、どういった機械や設備が必要で、費用の捻出など、どう進めていくのか、具体的な話を進めましょう。

成功例を言ってみたり、こうすべきだと言っても進まない。

この二つの問題を進めましょう。

(座 長)

生ごみを堆肥化するについては、市民サイドで行っても、二次処理をどうするのか。

第2 向陽小学校も御室小学校でも、二次処理は、学校の校庭で農園を作ってそこで堆肥化をして野菜を作っている。

畑のある方はいいけれど、ない方は二次処理をどうされるのかということ です。それについて、行政の方ではどうお考えですか。

(司 会)

一次発酵は家庭で行っていただき、その後、二次処理の問題をどうするのか。どれくらいの土地が必要なのか。それをどういう形でもってきていた だけなのか。そのあたりを十分考えたうえで、自分のところで処理できれば いいのですが、そういう家庭も少ないと思いますので、そのあたりの問題も からんできます。

(座 長)

一般市民の講座のごみの堆肥化、ごみ削減化は開く必要はあります。

これは、油回収と同じで、1軒だけがやっても、何軒かまとまらないと。

農家組合に堆肥化用に田を貸してもらおうよう、話し合いの準備期間が必要 ですね。

(司 会)

たとえば、二次処理をどこかの土地を借りて、集まってきたものを二次発 酵して、完全に堆肥化する。それをどう管理するのか。

その後、農家組合に引き渡すことも考えられるし、その他にも小袋に分けて一般市民の方にも分けるとか。

エコ地域推進委員会議の方で皆さん協力いただけるのかどうか。

運搬の仕方、管理方法、土地の利用方法など、検討していただきたい。

市の管理している土地で利用できる場所があれば使っていただける可能性もある。

また、減反で農家の方に協力を依頼するとか、何通りの方法も考えられるので、検討していただきたい。

(事務局)

利用させていただけるかどうかはわかりませんが、市民農園の一角を確保するとか。

(座長)

新林自治会は、枯葉をごみとして出していたが、逆にごみを増やしているようなものであるので、公園の一角にコンポストを作って枯葉を堆肥化し、それを市民に配布している。

(委員2)

機械で二次処理をすると早く安定したものができる。

(座長)

それをしているのが、山国自治会で、250万円の機械を使っている。

大原野は農家との話し合いがついて、全部農地へ返すことを条件とされている。

(委員4)

私のところの自治会は、30戸あるのですが、どれくらいのコンポストが必要ですか。

以前に、学校や保育所に配っていた青いコンポストは、自治会で使える大きさのものですか。

(座長)

自治会でコンポストを使うのではなく、京都市では各家で15リッターのコンポストで行う。この大きさであれば2～3人の家族の堆肥化ができる。

(委員4)

15リッターのコンポストさえ、置くことができないところもある。

だから、30戸ぐらいの利用できるコンポストであれば、どれくらいのものが必要なのですか。

以前に学校などに無料で配布したコンポストが、今では放置されているところがある。

たとえば、児童公園の片隅にコンポストが置けるのかどうか。

どれくらいの期間でどれくらいの堆肥ができるのか。

(委員 2)

生ごみをコンポストで、最初から堆肥化しようとするのはとても難しい。

1軒で1日に出る生ごみは、400～500グラム程度。1週間でかなりの量となる。それをそのままコンポストに入れると、少々場所が必要となる。

場所が確保しにくい家庭では、最初からそれを考えておかないと。

場所がないところは、もっと小さくて簡単な方法で、たとえばミカン箱一つのスペースがあればできるとか。それがいっぱいになったら指定の場所に持っていくとか。

(委員 4)

やはり一番簡単なのは電気でしょう。

(委員 2)

それは、ごみ処理をするよりも電気代がかかる。エネルギーを使うことはエコにはなりません。

できるだけ、自然の力でやらないと、片方で電気代を使っているとそこでCO₂を出してもったいない。

(委員 4)

どこかの土地を有効活用しないと。絶対的に土地のある人の方が少ない。

(座 長)

今、生ごみは、過渡期であって、お互いが実験中である。

京都市では、段ボールでやっているところもある。成功例も失敗例もある。

長岡京市では、生ごみの堆肥化の問題を各グループに分かれて実験している。その中で、どれが一番臭いがしなくて最良の方法かということの研究している。

お互いに一つの実験的なものでやっていかないとできないのではないか。

(委員 2)

私もそう思います。

(委員 3)

30戸ですると、二次処理と同じようになると思います。

一次発酵については、この会で詳しい方に講師になっていただき講座を開く、具体的な話を進めてはどうでしょう。

時期的にもグリーンカーテンの話もありますが、一応生ごみに絞って、具体的に取組をされている話が聞けるので、この話を進めていきましょう。

(委員 2)

私たちがお話ししたことが、今が冬であるからうまくいっている。

夏になると、とんでもないことになったということもあるので、1年間実験をしてからでないと説明できない。

本に書いてあっても、そのとおりにできるとは限らないし、地域ややり方によっても違うので、やはり説明するとなれば、間違いのないことを確信しないと、私たちも自信を持って説明できません。

(座 長)

エコ推進会議として、第2向陽小学校のやり方を見たうえで、どこかを拠点としてやっていけばいいのではないか。

学校給食の多い小学校であればいいのではないか。

(委員 2)

提案ですが、エコのメンバー10人ほどいるので、グループごとにいろいろな方法を1年間やってみて、その結果を見ていい方法を探し出す。その方が間違いがないと思う。

その間に二次処理の後の処理を検討していく。

特に気をつけるのは、魚の骨はきれいに洗う。煮汁のついた状態ではいけない。無知な人は最初から、魚の骨や油を入れる。そうすると堆肥ができない。

そういう状態で農家の畑に持っていくと、ごみ捨て場ではないと言われてしまうので、そのあたりまでよく考えて堆肥化をしないといけない。

(座 長)

生ごみの堆肥化は誤解をされている人がいる。

生ごみをそのまま入れて、近所から臭いと苦情が出る。

(委員 3)

講師を堆肥化に詳しいお二人にやってもらいましょう。

(委員 2)

それはやはり、これから1年間みんなでためしてみても、間違いがないと確信して、はじめて紹介できるのです。

(座 長)

やはりごみ対策はやるべきもので、成功例や失敗例の話をしていただきたい。

(委員 5)

成功例だけを聞くのではなく、失敗したことも聞きたい。

(委員 2)

確かに失敗例もあります。たとえば、ぬかを入れすぎたりすると発酵せずに腐ります。

(座 長)

堆肥化して連作ができる証明もあります。

(委員 2)

それは保証できませんね。なすびで連作ができないと。

(事務局)

それでは、堆肥化のお話については、グリーンカーテンの作り方を説明してもらった後にお願いいたします。

(司 会)

市民に対して、生ごみの再利用という意識づけで、私たちはこういう方法で取り組んでいますと、体験談に基づいたお話をしていただければ、より実感があると思っています。失敗も参考になってきます。

二次発酵については、産業振興課の貸し農園があるので、今後実験用として借りられるか聞いてみます。

そこで成功した堆肥については、市民に分けるとか、またこれが順調に進めば有料化の話も出てくると思います。

(座 長)

私はコンポストよりも、市民農園から発信していった方が、一番アピールしやすいのではないかと思います。

(司 会)

みなさんで、ある程度実験して、二次発酵までどれくらいかかり、堆肥化までどれくらいの期間がかかるのか、そのあたりをいろいろなやり方を実験していただいた中で、一定の方向性が出ると思う。

(座 長)

向日市は今からはじまるので、今回は啓発という意味で難しく考えずやってもらえればいい。

(司 会)

こういう再利用もあるという意識づけをお話していただければと思っています。

(委員 6)

昨年から毎日出る 80～90 グラムの生ごみを庭に埋めていたが、今は冬なので、庭には何も植えていないけれど、これからは、ゴーヤやアサガオを植えたりすると、生ごみの埋める場所がない。土のう袋はいいと思う。

(委員 1)

埋める場所がないときこそ、土のう袋を使って一次発酵をさせたのを庭の隅に埋めるという方法をとってもいい。

(委員 6)

アパートなどは、土がないのでどうしたらいいのかと思う。

(座 長)

ところで、コンポスト支援は平成 6 年からどれくらい出ていますか。

(事務局)

平成 6 年から 19 年 3 月末で 243 基。補助対象は、電気を含んで 282 基です。

(座 長)

今も使用されているかというのと、二次処理の問題ができないということで、やめられた方もいる。

(事務局)

平成 6 年にやって、平成 14 年度に追跡アンケートをとった。

85 人に対して 65 から回答があり、その内 53 人の方が利用されていた。これからまた、追跡調査も必要である。

(委員 7)

コンポストを 20 年ぐらい使用しているが、魚の骨から何から何まで全部入れていった。はじめは、虫がわいたり臭いがしたりして、夏はひどかった。

しかし、土を入れたり、ひっくり返したりして、手入れをすると最近はうまくいっている。

生ごみの水切りをしっかりとすることの必要性がよくわかった。

やはり、自分でやって失敗をしながらやっていくことが大事。

忙しい中、生ごみだけを分けて出すことがしんどかった。

(委員 8)

私の場合は、生ごみの水を切るくらい。堆肥化はいい話ですが、土地がないのでくさいと言われるとしたくなくなる。

(事務局)

堆肥化の話は、グリーンカーテンの講習会の後にしていただくということで、講師となっていていただく方と事務局とで話し合っていくということをお願いしたい。

(司 会)

先ほども言われたように、一次発酵は家庭でもできるということですね。

(委員 2)

できると思います。

間違いないとはまだ確信がありません。

(座 長)

次に、グリーンカーテンの講習会の開催について、苗の提供はされるのですか。

(事務局)

苗を2つお渡しします。

(司 会)

配布については、苗とネットぐらいを考えていますが、まだこれからつめていきたいと思っています。

(座 長)

グリーンカーテンを琴の橋でやってみようという話をすすめている。

市民さん相手に、講座をエコ推進会議でやってもいいですか。

(司 会)

かまいません。

エコの委員さんのご家庭でも啓発を兼ねてグリーンカーテンをやっていたら結構です。

(座 長)

講師は保健所からですか。

(司 会)

京都府地球温暖化防止活動センターからです。

(座 長)

次に、廃食油の回収の立ち上げ支援については、のぼり旗とポリタンクの支援ですね。

(司 会)

そうです。

これについては、公募いたします。個々での取組も受付をしますが、できましたら、町内会単位でお願いしたい。

(座 長)

広報で募集されるのですか。

(司 会)

はい。エコの委員の町内会においては是非とも推進していただきたいと思っています。

そうしていただくことは、実験的な要素もありますので、今後どういう形

で広まっていくか見ていきたいと考えています。

回収した油については、業者回収とします。今のところ業者と折衝をしている。

回収した油は有償回収か無償回収か、今後つめていきたいと考えている。

何らかの形で町内会に貢献できるような形をとりたいと業者は言っている。

(座 長)

これについて皆さん、どう思われますか。

(委員 7)

単なる公募では難しい。だれかが意識的に働きかけていかないと。

(委員 2)

3月末に自治会の総会があるので、それに間に合えば資料をいただきたい。

(司 会)

資料については、後日連絡をさせていただきます。

この件については、行政は極力前に出ず、町内会で自主的にやっていただき、またそのような意識づけをしたい思いがあり、市内の清掃業者に依頼して、地域貢献という形で協力をお願いしている。

話が決まれば報告をさせていただきます。

(座 長)

自治会の総会において啓発をしようと思う。

私の自治会でもそういう話が持ち上がっているが、アンケートをとったところ、この頃天ぷら油を使う料理は少ないという方が多い。

油をたくさん使わなくても少量でできる鍋があるとか。

1つの自治会では、集まらないので、2～3の自治会でまとめてやらなければならないと思う。

(司 会)

個々の自治会でやってもらうのが、一番理想な方法ですので、あまり幅を広げると話もまとまらない。

(座 長)

そうなれば、連合会の区を主体にして、これを拮げていかないと。

(委員 4)

近頃は、換気扇や台所が汚れるので、天ぷらをしないという家がほとんどである。

(委員 8)

ほとんどではないけれど多いですね。

(委員 4)

少なくなっているのは確かだ。

するのであれば、分別収集のときに一緒にポリ容器を置く。

(委員 8)

大牧ではそうしています。

(司 会)

分別収集の品目が一品目加わることによって、収集費用やいろいろな面が加わってきます。

今は、試験的にやっていきたいと思っていて、それが、どのくらいになるのか見定めたいとの思いがある。

(座 長)

私の方では、今声をかけているのは、第1・3週の分別収集のときに、油回収をすると油を持ってきやすいので、その日に設定をしてはどうかという話をしている。

それと、油処理場の問題です。各家庭にもって帰ればあぶない。

そうすると、自治会の倉庫に貯まった油を保管し、いくらか貯まってから業者が回収されるのですね。

(司 会)

油を集めたその日に回収します。

有償になった場合は1リットルいくらかで買い取られます。

(座 長)

そうすると、月1回という形ですか。

(事務局)

月1回でお願いします。

(座 長)

月1回で貯まった量が少なくても回収されるのですね。

(司 会)

そうです。回収のポリ容器を置く家で、そのポリ容器を預かっていただく(保管する)ことになります。

(座 長)

貯まった油を保管しておくという事はしないのですね。

(事務局)

朝、空のポリ容器を置いていただいて、のぼりを立てていただくだけです。

(司 会)

23日に予算が決定しますので、それから広報紙で公募し、その中で回収

方法等についてもお知らせをします。

(委員 4)

応募したところが、分別収集と同じ日に決めてもいいのですね。

(司 会)

分別収集の横に出すということは、市が回収するということになってきます。また、ポリ容器の片付けはだれがするのかということにもなってきますので、町内会でまとまっていたいただいて、責任者がいて、そのポリ容器のところまでみんながもってきていただいて回収する。

(座 長)

これは、市の回収ではなく、業者に全部委託するのですね。

(司 会)

責任者の方が、業者に電話をかけていただいて回収をしてもらおう。

(座 長)

委託ということは、京都市の行っているのと同じですね。

(司 会)

委託というと、市が委託している形になりますが、業者の協力によって回収していただくということになります。

(座 長)

今までの分別回収ではないということですね。

(司 会)

長岡京市の自治会で回収しているような方法で、自主的にやっていただきたいと思っている。

(座 長)

その啓発をエコ推進委員の自治会でやってほしいということですね。

(委員 4)

市が回収日を決めるのですか。

(司 会)

それについても業者とつめていきますが、町内会で決めていただくことになると思います。

(委員 4)

向かい側で分別をされていて、こちら側で回収をすればいいのですね。

(司 会)

そういうことです。自治会が責任をもってやっていただいたらそれで結構です。

(座 長)

どこの業者ですか。

(司 会)

市内の業者です。

(座 長)

次に、環境市民講座ですが、これは、地球温暖化についてですか。

(司 会)

地球温暖化問題、家庭における省エネ対策、全般的には環境保全についての講座と思っています。

(座 長)

生ごみの問題は、グリーンカーテンのあとで、体験談を発表すればいいのですね。

(司 会)

そうです。今回に限らず、もっと各所でやっていただければ結構です。

物集女公民館や、上植野公民館で参加者を募集して、皆さんに講師になっていただき、エコ地域推進委員として、活発な活動をしていただくというのは大いに結構なことです。

(委員 6)

広報紙の中で向日市のごみの削減目標が掲げてあります。

生ごみの削減については、今の話のように堆肥化に取り組めばいいけれど、ごみの削減とのつながりはどうなっているのか。

(司 会)

乙訓環境衛生組合の方で、二市一町から出るごみの組成分析をしまして、紙、布類の可燃ごみの中で占める割合は60%、生ごみについては、20%。今後は、紙類、生ごみをどのように減らしていけばごみの減量につながるのか。

また、ごみの問題については、再利用を市民の方に意識づけするよう重要な課題もありますので、そのあたりも合わせて考えていきたいと思っています。

(座 長)

今までのグリーンカーテン講習から廃食油の回収、生ごみの堆肥化の問題、環境市民講座と進んできましたが、何かご意見はございませんか。

(委員 9)

市民講座の講師は、どなたですか。

(司 会)

まだ決定はしていませんが、京都府地球温暖化防止活動センターの方にお
願いしようかと思っています。

(座 長)

グリーンカーテン講習会の日は決まっていますか。

(事務局)

5月15日の午後からです。

(座 長)

会場はまだ未定ですか。

(事務局)

はい。

(司 会)

挨拶の中でも言いましたように、ここに掲げた内容については、エコ地域
推進委員会議と協働のものの事業ということで、講習会につきましては、こ
の会議が前面に出ていただいて、講師の紹介や司会進行をしていただいて、
行政は後の支援という形で思っていますので、そのあたりもご理解いただき
たい。

エコ推進委員会の事業だという認識をしていただいたら、よりありがたい
と思っています。

(座 長)

エコ推進委員会議も、第2期目に入って、マイバッグ運動ばかりではなく、
新たな取り組みをしていく必要がある。

アンケートでも、エコ推進委員会議は何をしているところなのか知られて
いないという結果であった。

(委員6)

今度の講演会のことですが、是非入れてほしいと思っているのは、市から7
億1千万円がごみの経費となっている。

1日あたりのごみの量は633gで、2年間で9gしか減っていない。

ごみの減量の活動をすればその経費が減るような、市民の身近なことを話
してもらいたい。

専門家のセミナーは実感がわからない。教科書どおりでは、聞き手に伝わら
ない。

(司 会)

ごみの減量につとめ、費用の効果が出ているという資料を委員のみなさん
にお示ししていきたいと思っています。

(委員 6)

この間報告をされた、市の実行計画について、市役所としての温室効果ガスの削減に向けての取組を今回も発表されたい。

(司 会)

市役所も一事業所として、実行計画を近々作って、来年度から実行していく考えています。

(座 長)

他にご意見ございませんか。

では次に、市内一斉クリーン作戦の新事業がありますが、日程の設定はされていますか。

(司 会)

まだです。ごみゼロの日がいいのか、環境週間がよいのか、気候のいい時期がいいのか、検討中です。

(座 長)

それでは、組織や実施方法もまだ決まっていませんね。

(司 会)

どういう形ですのか。たとえば一ヶ所に集中して集まっていた方法もありますし、個別に地区でする方法もあります。まだ、そのあたりを詰めた部分があります。

(座 長)

年1回ですか。

(司 会)

そうです。

(座 長)

向日市の状況では分散開催になりますね。

(司 会)

それも一つの方法で、競輪場で集まり、そのあと地域へ分散する。これはアピールのいい。

(座 長)

次に、ノーレジ袋・マイバッグ運動については、引続き行います。

先日提案されていた、5月か6月頃に事業所回りをもう一度やってみる。それ以後どう変わっているのか。

以前のアンケートの中では、レジ袋が有料化になっても、その店で買い物をする、との回答がほとんどであった。その中でどういう認識をされるのか。

A店では、その店の会員にマイバッグを渡している。

(委員 5)

B店では、少しの買い物をして、こちらが何も言わなくても、大きなレジ袋を出す。

サティばかりにこだわっている感じがする。

(座 長)

各地区の人間を増やしていかないと、5~6人体制で分散するということは無理だ。各種団体に対して、もっと輪を広げたい。

今は消費者の会が協力していただいている感謝している。

すべての団体が一致団結していかないと、エコ推進会議の限られた人数では分散してやっていくのはむづかしいと思う。

消費者の会は、生ごみの堆肥化のことで亀岡へ勉強会に行かれて、生ごみの交流をされている。

この会議としてもそういうことをしなければならないと思っている。

たとえば、京都市の山国自治会の施設や、生ごみの施設の見学に行く場合、市のマイクロバスを出していただけますか。

(司 会)

エコ会議の研修として、10人以上集まれば出します。

(座 長)

他市との交流も必要だと思います。

前回のマイバッグ運動は(2月27日)午後4時に行った。その時は若い人も多く、礼儀もあって、啓発ができたのではないかと思います。

今月はどうしますか。10時にしますか。

(委員 2)

交互にしてはどうですか。

(座 長)

交互ですということはどうですか。今月は10時、来月は4時で。

(委 員)

はい。

(座 長)

前回は、配っていただいた方々の、若い人に対する評判が高かった。

相当啓発できたのではないかという意見もあり、やはり啓発の時間帯によるのではないかと思います。

(委員 9)

配っていて、「ありがとう」「ご苦労さん」という声が多かった。

今まで午前中には、そういうようなことはなかった。

(座 長)

グリーンカーテン講習会や、生ごみの堆肥化の話にしても、若い人が集まりやすいときに開催すると効果もあるのではないかな。

開催日時等については今後の検討課題としていただきたい。

(司 会)

そうですね。

(委員 8)

広報だけでは見ている人が少ないと思うので、子ども会やその他団体に案内を出されると、集まりもいいのではないかなと思う。

(司 会)

広報の方法も検討していきたい。

(委員 2)

見学についてですが、水口町でも、私たちがやっているような方法で堆肥化がうまくいっているらしい。

ただ、エキスを入れているとか。どの程度入れるのか、どのくらいの効果があるのかはわかりません。

(司 会)

情報収集をしておく。

(委員 7)

生ごみの堆肥化については、団体があって、全国で交流会をやっている。

(座 長)

団体はあります。お互いに模索しながら最良の道をさがしている。

(委員 7)

一度、交流会にも参加したい。

(座 長)

どこの自治体でも、生ごみと燃えるごみとの分別を分集したい考えはあるらしい。

本日は長時間どうもありがとうございました。

これで終了いたします。

(司 会)

どうもありがとうございました。

21年度の予算化した内容について、ご協議いただき、また、ご了解をしていただき、今後新たな取組事項として、いろいろな問題に取り組んでいきたいと思えます。

※ 最後に、退職にあたり木村次長、山本次長 挨拶